



Nurse's

Introduction

耳原総合病院看護師紹介

退院調整看護師 (地域医療課) **太田 斉子**

おおた ときこ



地域医療課

住み慣れた「地域へ帰る、地域で暮らす」ために

地域医療連携の分野では、介護と医療の連携が徐々に進み、最近では一人暮らしの高齢者や認知症をお持ちであっても、地域のご自宅へ退院されていかれるようになっていきます。

当院でも高齢で一人暮らしの方や、中心静脈ポート、レスピレーターを装着したままの方、ガン末期の方がご自宅、もしくは施設に退院されるケースが増えてきています。

治療を完全に終えてからということではなく、治療を継続しながら自分らしく住み慣れた場所で、療養生活へ踏み出されています。私たち退院支援部門の仕事は、そんな方々に安心して、できるだけ安全に療養生活を始めてもらえるよう、お手伝いさせていただく事です。

退院支援にかかわるスタッフは主に、MSW8名(医療福祉相談室)と退院調整看護師1名(地域医療課)です。

入院患者様には、主にMSWが関わらせていただきます。MSWを十分に配置することにより、経済的な問題、社会的問題、社会制度の活用、ケアマネジャーさんとの調整など細かなところまで関与することが可能です。また医療処置の継続が必要な場合や、引き続き医療的サポートが必要な場合は退院調整看護師が調整を進めます。その際引き続き患者様のケアにあたっていただいている地域の医療機関様や訪問看護ST様には、大変お世話になっています。多くのケアが必要な患者様を地域の中で24時間365日支えておられることに、感謝申し上げます。

私たちも、もっともっと地域の中で頼りにされる存在になりたいと思っています。これからもよろしく願いいたします。

耳原総合病院 地域医療課

直通電話 072-241-0324

直通FAX 072-241-0208

- 「診察・入院申込書」「検査申込書」をFAXいただくか、お電話でご予約をお取りいたします。
※折り返しFAXにて予約票をお送り致します。
- 予約当日、患者様が受診の際にご持参いただくもの
①保険証、②診療情報提供書、③上記予約票
※上記の3点をご持参いただくよう、患者様にお伝えください。



2012年10月10日発行

■発行人/奥村伸二 ■発行/社会医療法人 同仁会 耳原総合病院 地域医療課
〒590-8505 大阪府堺市堺区協和町4丁465番地
TEL 072-241-0501 (代表) TEL 072-241-0324 (直通)
URL <http://www.mimihara.or.jp/sogo/>

耳原総合病院の基本方針 —2015ビジョン—
「いのちの平等をかがげ、大阪南部になくはならない保健・医療・介護・福祉の複合体として、24時間365日、安全・安心・信頼の事業体とまちづくりを進めている」

ぱとあ

耳原総合病院機関紙

vol.126
2012.10.OCT

耳原総合病院の理念

耳原総合病院はこんな医療をめざしています

- ♥安全、安心、信頼の医療
 - ♥無差別、平等の医療
 - ♥患者負担の少ない医療
 - ♥地域とともに歩む専門職の育成
- 差額ベッド代はいただきません



活動をはじめて10年
緩和ケア病棟ボランティア

緩和ケア病棟ボランティア代表 山路 八重子

患者様、ご家族様の思いに寄り添って

耳原総合病院 緩和ケア病棟は2002年12月に開設されました。私達ボランティアグループも同時に活動を始めたので、ともに今年10年目という節目を迎えています。

10年間継続している活動スタイルは、午前中2時間で、お花の世話や熱帯魚の管理など病棟の環境整備と、昼食前の配茶は熱い、ぬるい、冷たいと3種類のお茶と冷水、を準備して各お部屋を回ります。午後の2時間は病院食のおやつと一緒に、事前にオーダーをいただいた飲み物、コーヒー、紅茶、ココア、カルピス、お煎茶などをお届けして、お話し相手もさせていただきます。

活動中は黄色いエプロンが目印で、患者様、ご家族様の思いに寄り添えるように努めています。過日もあるお母さんと廊下ですれ違い時に、月並みの挨拶から始まった立ち話でしたが、「自家の息子ももう重篤なんです。それでも私はまだ諦められず、もしかしたら奇跡が起こるんじゃないかと思って、毎日ここに通ってくるんです」と話され、ポロポロと涙をこぼし始めました。私は何も言えず、その方の背中にそっと手をあてて、ただうなずくだけでした。それでもお母さんは「ありがとう、聞いてくれて」と言われ病室に帰っていかれました。

ある時は、車イスで自送にて、病室と喫煙室を何度も往復している患者様に「〇〇さん、せっかく車イスに乗り換えてデイルームに出てこられるのに、タバコ以外にもう一つここで楽しみを見つけてください」と呼びかけると「タバコ以外の楽しみか!じゃ美人で若いの連れてきて~」「わあ~きびしい注文!」と笑っているとテーブルに寄り添って「これで

なあ、病気になってタバコ随分減らしたんや~」とお話を始めてくださいました。

希望や楽しみ、苦しみや不安も
分かち合える場所に

患者様ご家族、おひとりおひとりの、ささやかな希望や楽しみ、苦しみや不安も一緒に分かち合える場所になるように心掛けることが、ボランティアのやりがいとなり、続けてこれたように思います。

平日の活動以外にも病棟行事で、毎月第1土曜日に行うイベント、年1回のクリスマス会、偲ぶ会の開催は医療者集団と共同で企画、運営に参加しています。また、毎金曜日にはコーラスボランティア「コールフィリオ」指導による「うた声喫茶」もおこなっています。

私達に、こんな場が与えられ、10年目を迎えることが出来たのは「緩和医療は、患者様とその家族を中心に、私達医療者と医療を職業としない方々(ボランティアさんのみならず地域の方々も)が協力して作り上げていくものだと思います」と元緩和ケア病棟医師が書いておられた、病院の理念があるからだと思っています。



10月イベント運動会装飾下での「うた声喫茶」